

# 2026年3月期 第1四半期決算 補足説明資料

TREホールディングス株式会社  
(東証プライム：9247)

「地球の環境保全に貢献する。」



2025年8月8日

## 目次



当第1四半期のサマリー P3

決算の概況【連結】 ＜当第1四半期決算の概況＞ P4

2026年3月期 第1四半期決算 P6

- ✓ 建設廃棄物に関わる市場環境
- ✓ 資源リサイクルに関わる市場環境
- ✓ セグメント別売上高及び営業利益、営業利益率
- ✓ セグメント別売上高増減分析（対前年同期比）
- ✓ セグメント別営業利益増減分析（対前年同期比）
- ✓ 売上高実績・営業利益実績推移
- ✓ 設備投資・減価償却費・のれん償却

TOPICS P13

- ✓ 令和6年能登半島地震への対応状況について
- ✓ 資源リサイクル事業の最新情報
- ✓ 再生可能エネルギー事業の最新情報
- ✓ 投資計画の進捗状況
- ✓ 設備投資予定と財務バランス

APPENDIX P20

- ✓ 企業理念
- ✓ 設立の目的
- ✓ 会社概要
- ✓ 市場環境と当社グループのポジショニング
- ✓ 事業内容
- ✓ 高度循環型社会・脱炭素社会への取り組み

業績

震災廃棄物処理事業は、公費解体が加速し、計画を上回り進展。既存廃棄物処理・リサイクル事業は、人件費・諸物価高騰等も、堅調に推移。  
前年度期末、減損計上の再エネ事業は、高負荷運転、電力小売好調により赤字幅大幅縮小。  
以上により、当第1四半期は計画を上回る増収増益。中間期の業績予想を上方修正。

株主還元

当第1四半期の実績を踏まえ、自己株式の取得（20億円）と期末の配当予想を5円引き上げを決議。

投資・M&A

市原構想は、廃プラ工場の工事が進行中。川島、壬生は順調に進捗。相馬構想では、廃プラ事業等を推進。新たな成長拠点として、北海道札幌市の廃棄物リサイクル事業者を子会社化。

市場動向等

「資源高度化法」の政省令施行等を見据え、動静脈企業間・公民連携による脱炭素型の事業スキーム構築、新事業の具体化を推進中。

決算の概況【連結】 <当第1四半期決算の概況>

- 中間期業績予想を**上方修正**（売上高+20億円、営業利益+10億円）
- 下期は据え置きのため、**通期も同額上方修正**。
- **自己株式の取得**（20億円）と期末配当予想を5円引き上げ（**増配**）を決議。

（単位：百万円）

	前期 1Q	26年3月期						1株当たり 配当金	
		1Q	増減率	中間期予想 (修正)	進捗率	通期予想 (修正)	進捗率	(中間) 20円	(期末) 25円
売上高	25,873	32,398	+25.2%	63,100	51.3%	121,300	26.7%	(年間) 45円	
営業利益	2,513	7,643	+204.1%	11,150	68.5%	19,000	40.2%	期末配当+5円	
経常利益	2,452	7,489	+205.3%	10,750	69.7%	18,300	40.9%	1株当たり 配当金	
親会社株主に帰属する 当期／四半期純利益	1,551	5,067	+226.7%	7,200	70.4%	12,300	41.2%	(中間) 20円	(期末) 30円
								(年間) 50円	

前期比で増収増益

- 廃棄物処理・再資源化事業において、令和6年能登半島地震に係る復旧・復興支援事業で、公費解体の棟数及び災害廃棄物の処理実績が、前年同期を大幅に上回ったことや、再生可能エネルギー事業において小売りの営業強化が具現化したことなどにより、前期比で増収増益。

# 2026年3月期 第1四半期決算

**WX**  
Waste  
Transformation

**TRE HOLDINGS**

©TRE HOLDINGS CORPORATION | TREホールディングス株式会社（東証プライム：9247）

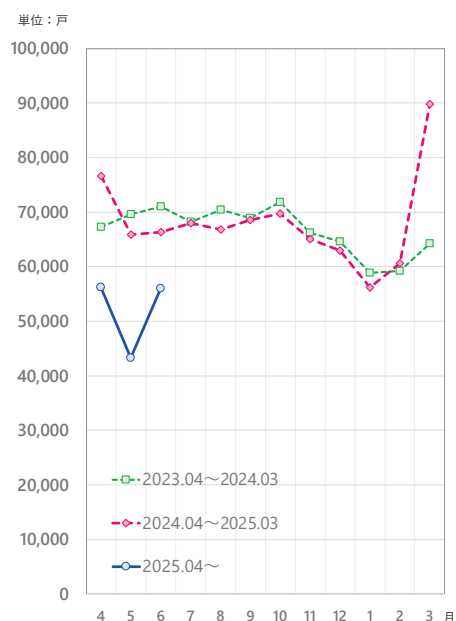
5

## 建設廃棄物に関わる市場環境

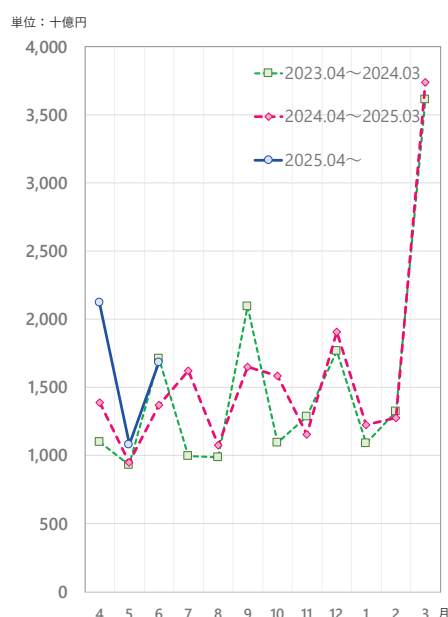
**TRE HOLDINGS**

Waste Transformation **WX**

### ■ 新設住宅着工戸数



### ■ 建設工事受注高 (大手50社)



### ■ 建設系廃棄物の長期トレンド

- ◆ 全産業廃棄物（約4億t）の内、建設系廃棄物は発生量、最終処分量ともに全体の約2割を占める。
- ◆ アスベストなどの有害物質の含有建材については、適切な分別及び処理が求められている。
- ◆ 高度経済成長期に整備された社会資本の老朽化が進み、今後の維持管理費は、10年後には1.2倍に増大すると予想される。
- ◆ 近年、多発する地震、台風や局地的な豪雨等、災害の激甚化が進み、災害廃棄物とともに多くの廃棄物が排出され、建設リサイクル分野にも影響。
- ◆ 建築資材高騰に伴う着工件数の減少や、働き方改革による休工日の増加、作業員不足による工期の延伸等には留意が必要。

#### 廃棄物処理・再資源化事業

高度循環型社会・カーボンニュートラルに潜在課題を持つ顧客のニーズに対し、再生可能エネルギー事業との連携を活用した

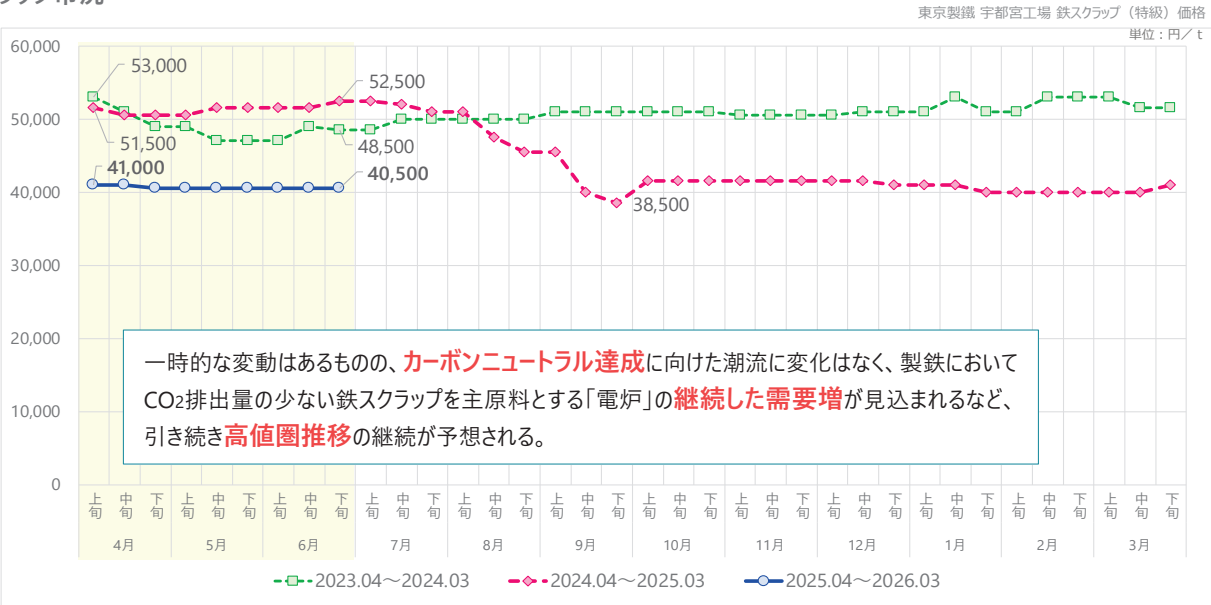
**ソリューション（課題解決）提案力を強化**

（グラフデータ 出典：国土交通省）

©TRE HOLDINGS CORPORATION | TREホールディングス株式会社（東証プライム：9247）

6

鉄スクラップ市況



資源リサイクル事業

販路の多い関東に拠点を構えているメリットを活かし、在庫保有期間の最短化による 相場下落リスクの最小化を実現

セグメント別売上高及び営業利益、営業利益率

	売上高 (注1)			営業利益			営業利益率	
	前期 1Q	26年3月期 1Q		前期 1Q	26年3月期 1Q		前期 1Q	26年3月期 1Q
			増減率			増減率		
連 結	25,873	32,398	+25.2%	2,513	7,643	+204.1%	9.7%	23.6%
廃棄物処理・再資源化事業	8,603	16,124	+87.4%	1,947	7,122	+265.6%	22.6%	44.2%
資源リサイクル事業	11,682	10,801	-7.5%	1,103	680	-38.4%	9.4%	6.3%
再生可能エネルギー事業 (注2)	3,182	3,481	+9.4%	-419	-15	-	-	-
その他	2,405	1,991	-17.2%	131	212	+61.5%	5.4%	10.6%
調 整 額 (注3)	0	0	-	-250	-356	-	-	-

注1：セグメント毎の売上高については、今期より「外部顧客への売上高」に変更（前期も修正済）。

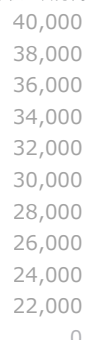
注2：再生可能エネルギー事業の前期営業利益には、市原グリーン電力株式会社等に関するのれん償却額98百万円が含まれる。

注3：セグメント利益又は損失の調整額△356百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△317百万円、セグメント間取引消去△39百万円。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費を指す。

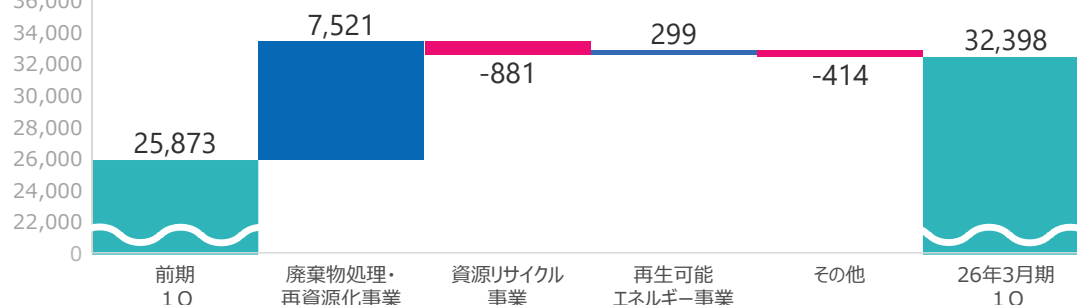
## セグメント別売上高増減分析（対前年同期比）

### ■ 売上高

単位：百万円



■ 増加要因  
■ 減少要因



#### 廃棄物処理・再資源化事業

- 能登半島地震の復旧支援事業が前期比で大幅増収。(株)池田商店は、受入品質を重視した結果、受入量が減り減収。
- 廃石膏ボードを扱うギブロ、GA関東は搬入量が増加し増収となったが、GA東北は大型案件の終了に伴い減収。

#### 資源リサイクル事業

- 鉄スクラップ価格が前年同期間に比べて10,000円/トン程度低い価格帯で継続推移したことや、銅・アルミなどの非鉄相場も同様に低位であったこと、加えて使用済自動車や什器類などの複合素材品の取扱量が減少したことなどにより減収。

#### 再生可能エネルギー事業

- 市原グリーン電力(株)は定期修繕等により前期比で稼働日数が減少したが、高負荷運転により増収、(株)タケエイグリーンリサイクルは、能登復旧関連の収集運搬等により増収。
- 電力小売りの(株)タケエイでんきは、営業体制強化により最終需要家向け販売量拡大し増収。

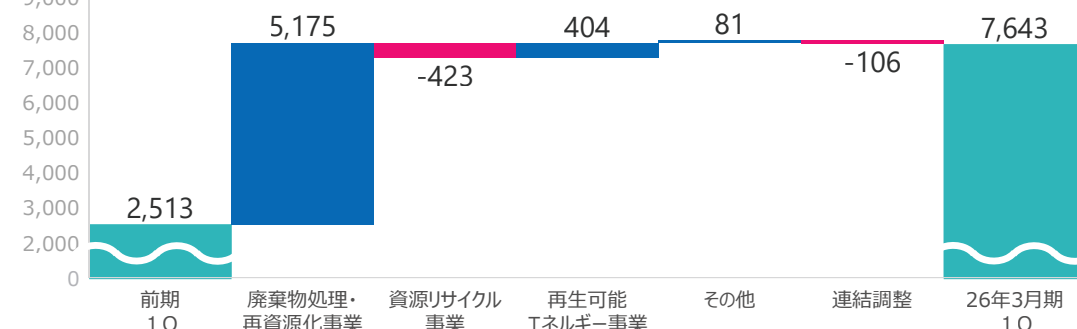
## セグメント別営業利益増減分析（対前年同期比）

### ■ 営業利益

単位：百万円



■ 増加要因  
■ 減少要因



#### 廃棄物処理・再資源化事業

- (株)タケエイでは処分・収運単価改定効果及び能登半島地震対応等で増益。(株)タッグは仕入原価高騰により減益。(株)池田商店は、受入数量減少に伴い減益。
- (株)北陸環境サービス及び(株)門前クリーンパーク（2024年8月開業）にて、災害廃棄物受け入れにより増益。

#### 資源リサイクル事業

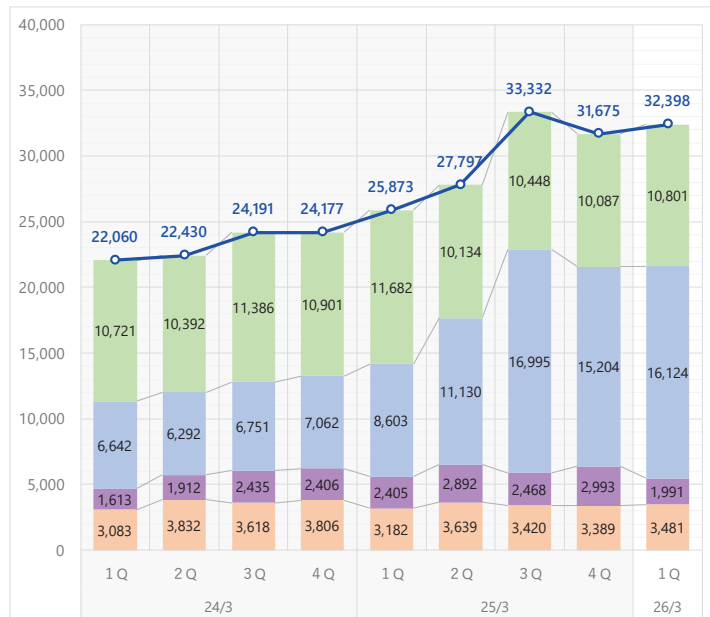
- 前年同期間に比べ、銅・アルミなどの非鉄相場が低位であったことに加え、廃棄物や複合素材品の取扱量が減少したことによる有価物売却益の減少、人材の確保・定着に向けた人件費の増加などにより減益。

#### 再生可能エネルギー事業

- 市原グリーン電力(株)は定期修繕の他、計画外停止もあり、修繕費等が増加し赤字幅が拡大。
- (株)タケエイグリーンリサイクルは、修繕費や減価償却費の減少等により黒字転換。
- 電力小売りの(株)タケエイでんきは、最終需要家への販売量増加に伴い増益。

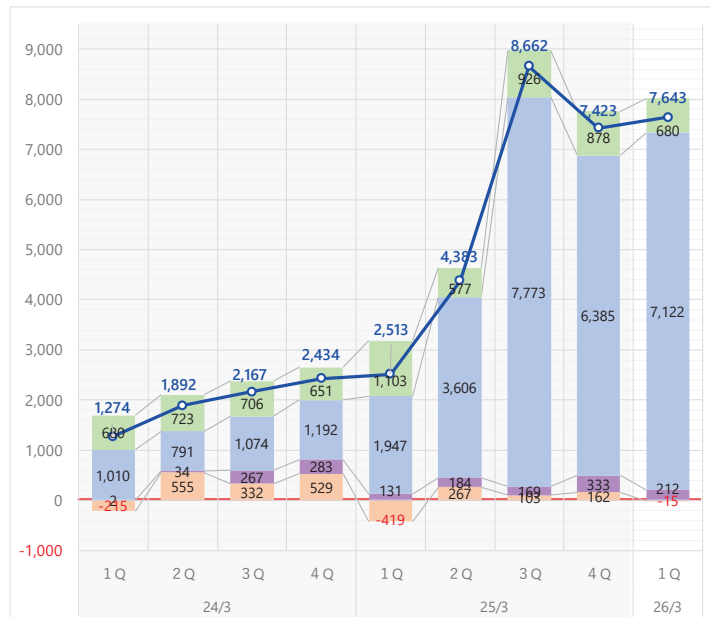
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



©TRE HOLDINGS CORPORATION | TREホールディングス株式会社（東証プライム：9247）

注：折れ線グラフは連結業績を表し、棒グラフはセグメント毎の業績を積み上げた単純合算を表します。

11

設備投資・減価償却費・のれん償却

単位：百万円

	前期 1Q	26年3月期 1Q	通期計画
設備投資(注1)	3,239	6,214	19,298
減価償却費	1,460	2,204	8,115
のれん償却(連結)	146	51	202

注1：設備投資額は有形固定資産及び無形固定資産の数値を表記。

設備投資の計画

TRE環境複合事業構想の一環である「廃プラスチック高度選別・再商品化事業」は、(株)タケエイによる市原ソーティングセンターとして4月に着工し、2026年6月の建設工事完了（同年10月より受入開始予定）を目指して設備投資を推進します。

同じく「産業廃棄物破砕選別・再資源化事業」についても、自治体との事前協議など稼働開始に向けた取り組みを進めております。また、リバー(株)の北関東エリアに所在する事業所の主要設備更新や事業所拡張を計画するなど、当期においても引き続き、第2次中期経営計画の達成に向けた積極的な設備投資を行ってまいります。

■ 当期の主な設備投資（実績と計画）

1Q実績 通期計画

(株)タケエイ	「TRE環境複合事業構想」（廃プラ・破砕）等	15.4億円	46.9億円
(株)タケエイ	設備・重機更新等	2.1億円	22.6億円
リバー(株)	北関東エリア主要設備更新および事業所拡張等	3.2億円	14.9億円
(株)T&Hエコみらい	焼却施設新設等	-	14.7億円
リバー(株)	川島事業所シュレッダー(破砕機)更新等	9.2億円	13.9億円
(株)門前クリーンパーク	処分場堰堤工事等	1.9億円	12.4億円
(株)タケエイ	相馬サーキュラーパークインフラ整備工事等	4.5億円	11.3億円
(株)ブラテック相馬	相馬サーキュラーパーク廃プラ処理施設等	6.3億円	6.3億円
リバー(株)	既存建屋増築による研究棟建設	0.1億円	2.0億円

- 「TRE環境複合事業構想」の一環である市原ソーティングセンターの建設工事は工程通り進捗中。
- (株)タケエイにおいて既存事業所の設備更新、物流管理本部の太陽光パネル設置工事、車両購入等を実施。
- リバー(株)北関東エリア所在の事業所拡張に向け土地を取得。
- リバー(株)川島事業所のシュレッダー(破砕機)更新は順調に進捗。現在、選別棟の建設工事中。
- (株)タケエイ・(株)ブラテック相馬においては、相馬サーキュラーパークにおけるインフラ整備工事、廃プラ処理施設等の設備設置に向けた取組みに着手。
- リバー(株)の自動車リサイクル関連の研究棟建設は計画通り進捗中。

©TRE HOLDINGS CORPORATION | TREホールディングス株式会社（東証プライム：9247）

12



# TOPICS

WX  
Waste  
Transformation

TRE HOLDINGS

## TOPICS 令和6年能登半島地震への対応状況について

TRE HOLDINGS  
Waste Transformation WX

### 復旧・復興支援事業の状況

- 石川県産業資源循環協会として(株)タケエイ北陸支店が、輪島市、珠洲市にて仮置場を運営、公費解体の現場から搬入される災害廃棄物の処理を行う。
  - グループ社員や協会社メンバー、現地採用者が活動中。(過去最大で400名超)
  - 仮置場の新規開設、統合、閉場等により、仮置場数は変動あり。
- 2025年6月の公費解体・自費解体の申請終了を受け、災害廃棄物受入量は徐々に減少傾向。
- 門前クリーンパーク最終処分場(2024年8月受入れ開始)は、順調に稼働し、100台/日を超える大型車両の搬入に対応。
- 中間処理施設「門前リサイクルセンター」(2024年11月開設)は、順調に稼働。

引き続き、26年3月末の処理完了を目指し、安全と健康に留意して取り組んでまいります

【仮置場撮影：2025年6月、7月】



輪島市 第一仮置場 [3万m<sup>2</sup>]



【県内最大の仮置場面積】

珠洲市 ジャンボリー跡地 [12万m<sup>2</sup>]



地元の方と協力して  
輪島市・珠洲市にて  
清掃活動を実施  
〔2025年5月30日〕



〔2025年7月〕

門前クリーンパーク管理型最終処分場

## 自動車産業におけるサーキュラーエコノミーの実現に向けて

DENSO  
Crafting the Core'TORAY'  
Innovation by Chemistry

NRI

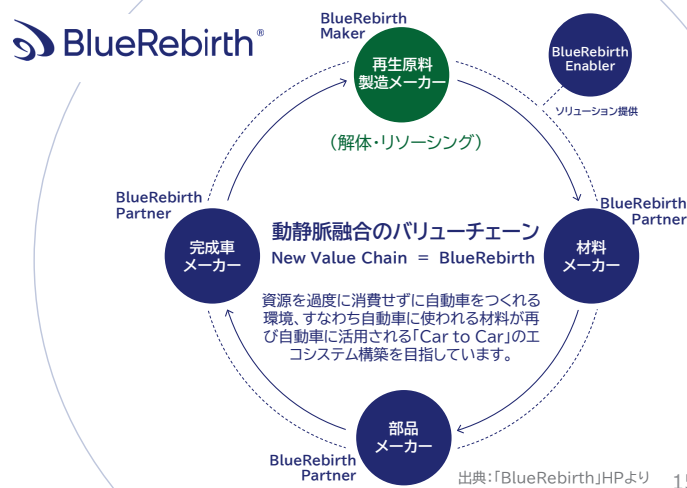
HONDA

MATEC

REVER

TREグループのリバー(株)を含む  
6社(注1)が発起人となりBlueRebirth 協議会を設立  
(ブルーリバース)

構成員は動静脈関連企業約30社

自動車産業における再生材利用の拡大に向け、  
動脈産業(生産・販売)と静脈産業(解体・リソーシング)による  
「動静脈融合バリューチェーン」の実現を目指します。注1: 株式会社デンソー、東レ株式会社、株式会社野村総合研究所、本田技研工業株式会社、株式会社マテック、リバー株式会社  
©TRE HOLDINGS CORPORATION | TREホールディングス株式会社 (東証プライム: 9247)TREグループのリバー(株)は、  
リサイクラーとして長年培った知見・ノウハウを活かし、  
日本の自動車産業における新しい資源循環の仕組みを支えます。「再生材の品質向上、使用済自動車の取扱量増大を図り  
リサイクラーから 再生原料製造メーカーへ」

15

## リバー(株) 壬生事業所(栃木県) 2025年8月開業スタート

- 大型シュレッダーによる破碎処理後のダスト(残さ物)から、金属類・プラスチック類などを選別する新工場を建設。
- 長年の選別ノウハウを生かした選別ラインの設計・配置を実施し、年間48,000tのダストを受入れ50%を再資源化。



©TRE HOLDINGS CORPORATION | TREホールディングス株式会社 (東証プライム: 9247)

16



脱炭素社会に向けた取り組みの強化

- 動静脈産業間連携:

三菱ガス化学㈱と、国内の木質バイオマスおよび廃棄物由来のグリーンメタノール製造・販売に向けた事業化検証に関する覚書を締結。事業性を検証するプラントは、千葉県内に設置を検討。TREは木質資源や廃プラスチック等を調達する。
- 電力小売強化:

男子プロバスケットボールリーグB.LEAGUEに所属する「アルバルク東京」及び2025年秋開業予定の「TOYOTA ARENA TOKYO」を運営するトヨタアルバルク東京㈱とダイヤモンドパートナー契約を締結。新アリーナへ㈱タケエィでんきから2025年7月より電力を独占供給開始、発電は市原グリーン電力㈱。タケエィでんきは2025年1月からアリーナ施工現場への電力供給を行った。
- 発電：市原グリーン電力 → 電力小売：タケエィでんき → 電力供給先：TOYOTA ARENA TOKYO

電力供給スキーム

各発電所の定期修繕計画（予定）

	運転年数 注1（営業運転開始）	主な修繕・点検の内容	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
㈱津軽バイオマスエナジー	10年目（2015年12月）	ボイラー法定点検あり	○		◎注2	
㈱花巻バイオマスエナジー	9年目（2017年2月）	各種定期修繕	○		○	
㈱大仙バイオマスエナジー	7年目（2019年2月）	各種定期修繕	○		○	
㈱タケエィグリーンリサイクル	6年目（2019年11月）	ボイラー法定点検あり		◎注2		○
市原グリーン電力㈱	19年目（2008年2月）	ボイラー、タービンなど	○	○注3		○注4
㈱田村バイオマスエナジー	5年目（2021年4月）	各種定期修繕	○	○		

注1：ここの「運転年数」は、発電設備が竣工し、試運転を開始した年から数える。営業運転開始年とは一致しない。

注2：㈱津軽バイオマスエナジー、㈱タケエィグリーンリサイクルにて、ボイラーの法定点検を予定。

注3：市原グリーン電力㈱では、第3四半期に実施予定であった点検を前倒しで行う予定。

注4：来期実施予定であった定期修繕工事を前倒しで行う予定。

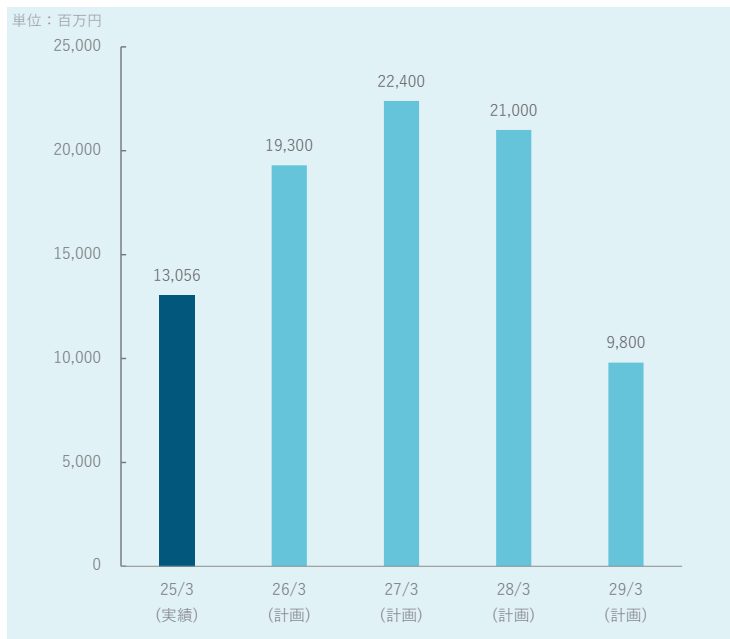
◎ 法定点検（ボイラー2年に一度、タービン4年に一度）  
○ 定期修繕

TRE環境複合事業構想

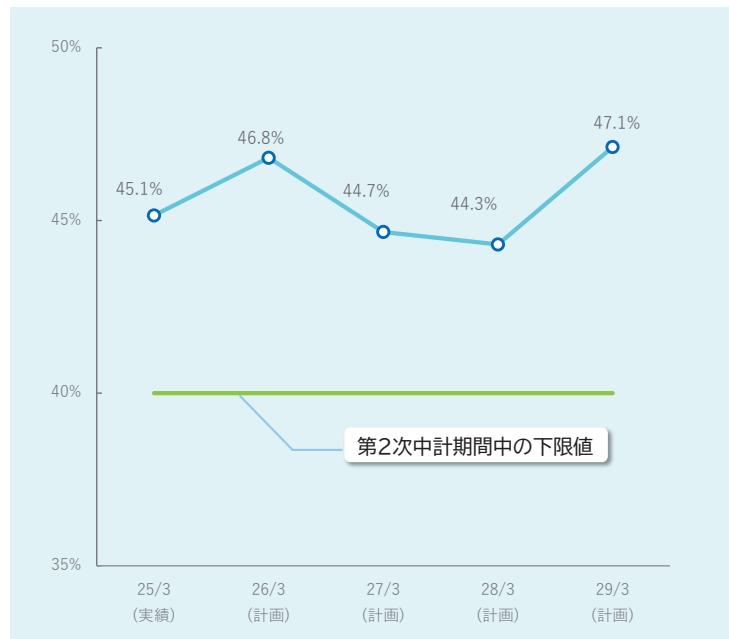
事業内容	投資予定額 （億円）（注1）	2026年3月期 （2025年度）	2027年3月期 （2026年度）	2028年3月期 （2027年度）	2029年3月期 （2028年度）
廃棄物焼却・発電 （㈱T&Hエコみらいを設立。首都圏好立地で高効率発電の安定稼働を目指す）	161 （注2） 更新			工事	
産業廃棄物破碎選別・再資源化 設備能力を大幅に拡充し、再資源化、処理困難物のRPF製造を図る	110 更新	工事	事業開始	工事	事業開始
廃プラスチック高度選別・再商品化 （市原ソーティングセンター） 自治体などの排出元との連携、利用先との先進的技術開発も行う	82 更新	工事	事業開始	工事	事業開始
金属資源高度選別 リバー（㈱市原事業所等）で発生するシュレツダーダスト（残さ物）から有用な金属等の資源を回収	77 更新	工事	事業開始	工事	事業開始
相馬サーキュラーパーク構想 （プラテック相馬） プラスチックリサイクル事業	29 （注3）	工事	事業開始		

注1：確定済みの補助金は投資予定額から控除済み。注2：㈱タケエィが出資比率分（51％）を負担予定。注3：㈱タケィが出資比率（90％）を負担予定。

● 設備投資計画



● 自己資本比率見通し



## APPENDIX

WX  
Waste  
Transformation

## 地球の環境保全に貢献する。

気候変動や環境破壊、天然資源の枯渇など、世界中で発生しているさまざまな環境問題を解決するためには、

高度循環型社会ならびに脱炭素社会への転換が必要です。

わが国においても、環境面に加えて、経済・社会面からも重要な国家的課題として、

循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行が求められています。

私たちは、自然との調和、地域の生態系と共生し、「WX（Waste Transformation）環境企業」として、リサイクル事業の深化や、エネルギー事業の推進に取り組み、そのための技術開発にも積極的に挑戦します。

また、あらゆるステークホルダーとのバランスの取れた関係を一層強化し、持続的な社会の実現に貢献するため、サステナビリティ経営を実践します。



TRE HOLDINGS TREホールディングス株式会社（東証プライム：9247）

21

## APPENDIX 設立の目的

マクロ環境における課題

地球	地球温暖化 資源枯渇 廃プラスチック問題	日本	人口減少 市場縮小 インフラ老朽化	業界	非効率経営 低い信頼性 後継者問題
----	----------------------------	----	-------------------------	----	-------------------------

求められる社会ニーズ

高度循環型社会の実現

脱炭素社会の実現

そのために

地球環境に対する“想い”が一致する両社が結束し、あらゆる経済資源を活かし合いシナジーを発揮する。

2021年10月1日 **（株）タケエイ** と **リバー（株）**（旧リバーホールディングス（株））は、共同持株会社を設立し、**サーキュラーエコノミーを牽引するリサイクル企業集団としてグループの成長・飛躍を図ります。**



# TREホールディングス（株）

Try

Technology

Recycling

Renewable Energy

Earth Ecology

挑戦する

新たな技術開発

リサイクル事業の深化

エネルギー事業の推進

地球の環境保全



TRE HOLDINGS TREホールディングス株式会社（東証プライム：9247）

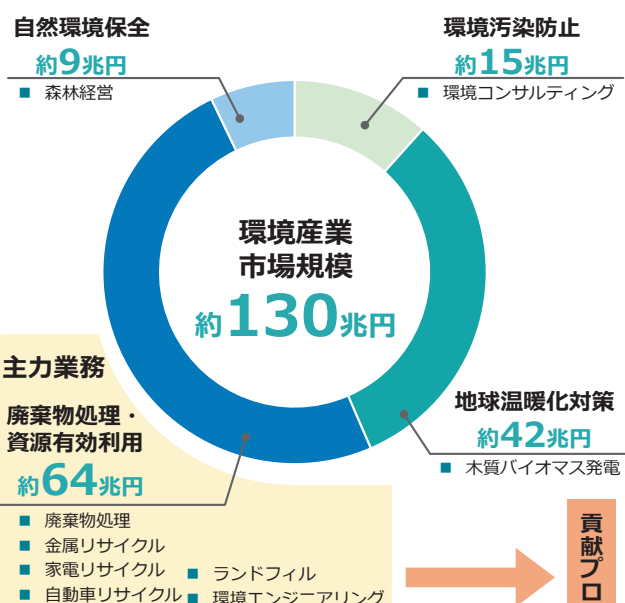
22

企業理念	地球の環境保全に貢献する。
設 立	2021年10月1日
本 社	東京都千代田区
代表取締役	代表取締役会長 松岡直人 / 代表取締役社長 阿部光男
資 本 金	100億円
従 業 員	連結：2,428名
グループ事業内容	廃棄物処理・再資源化事業、資源リサイクル事業、再生可能エネルギー事業、環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業
子会社等	子会社：37社 持分法適用関連会社：6社
グループ拠点数	66拠点 首都圏及び東北、北陸、甲信、関西他 / 海外(タイ)1拠点
グループ主要顧客	大手建設会社、ハウスメーカー、大手製鉄会社、商社等

2025年6月末時点

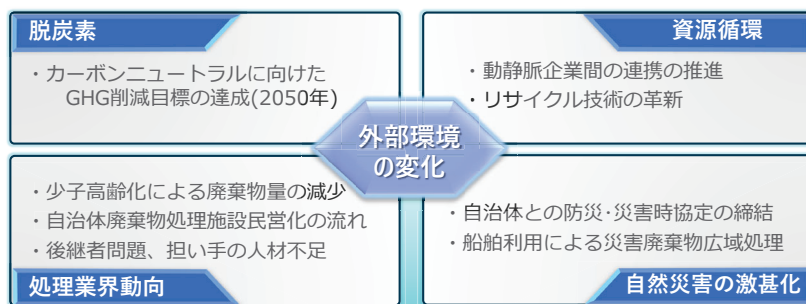
## APPENDIX 市場環境と当社グループのポジショニング

### ■ 日本における環境産業の市場規模 約130兆円

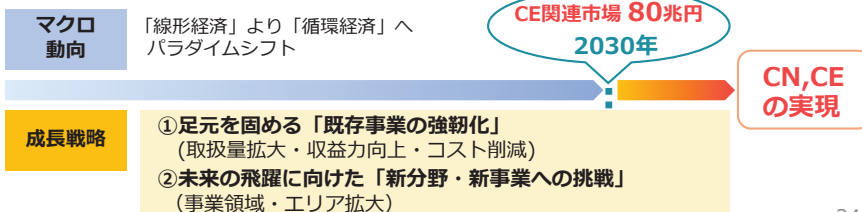


※ 出典：2025年6月発表（2023年版）環境産業市場規模検討会「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書」

### ■ 国内の環境産業が抱える課題



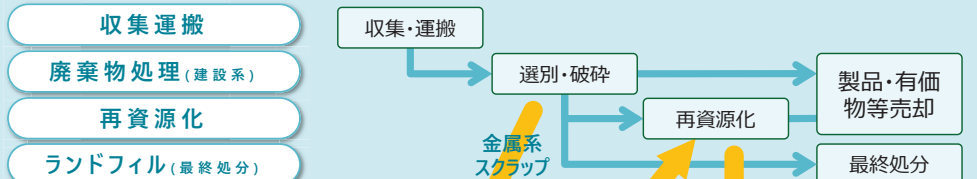
2030年までに **CE関連市場は50兆円から80兆円に拡大**。  
使用済自動車、廃家電、建設廃棄物などの処理・再資源化を担う  
**当社グループはユニークなポジショニング**。





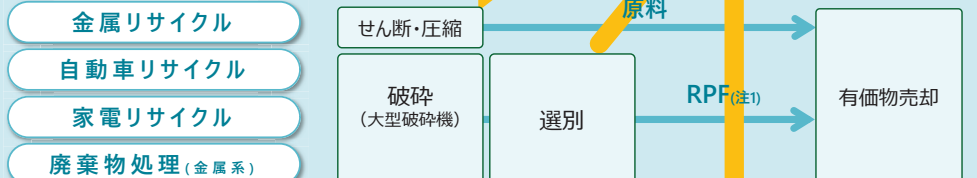
廢棄物處理・再資源化事業

廃棄物の収集運搬から再資源化・最終処分までワンストップソリューションを提供し、資源を無駄なく循環させるサーキュラーエコノミーの実現に貢献しています。



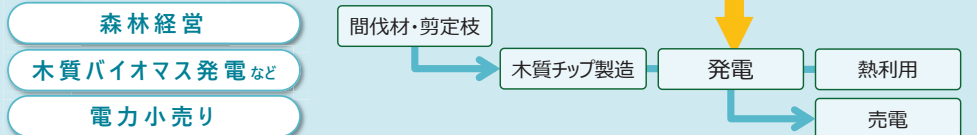
## 資源リサイクル事業

一世紀以上にわたり磨き続けてきた処理技術を基盤に、金属スクラップをはじめ、使用済自動車や廃家電などの徹底した再資源化を通じ、高度循環型社会の実現に貢献しています。



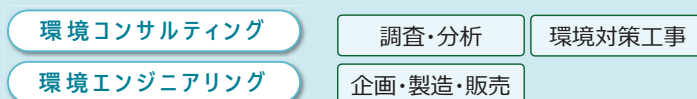
## 再生可能エネルギー事業

国内森林の未利用材等を発電燃料とした「電力の地産地消」による木質バイオマス発電を展開。森林を取得し、森林経営にも取り組み「脱炭素社会」の実現に貢献しています。



## その他

環境装置やプラント、特装車両の開発・製造・販売。計量証明業務、環境対策工事および有害廃棄物等の調査・分析業務を行っています。



注1：RPFとは、古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。高カロリーで、化石燃料と比較してCO2排出量が少ない。

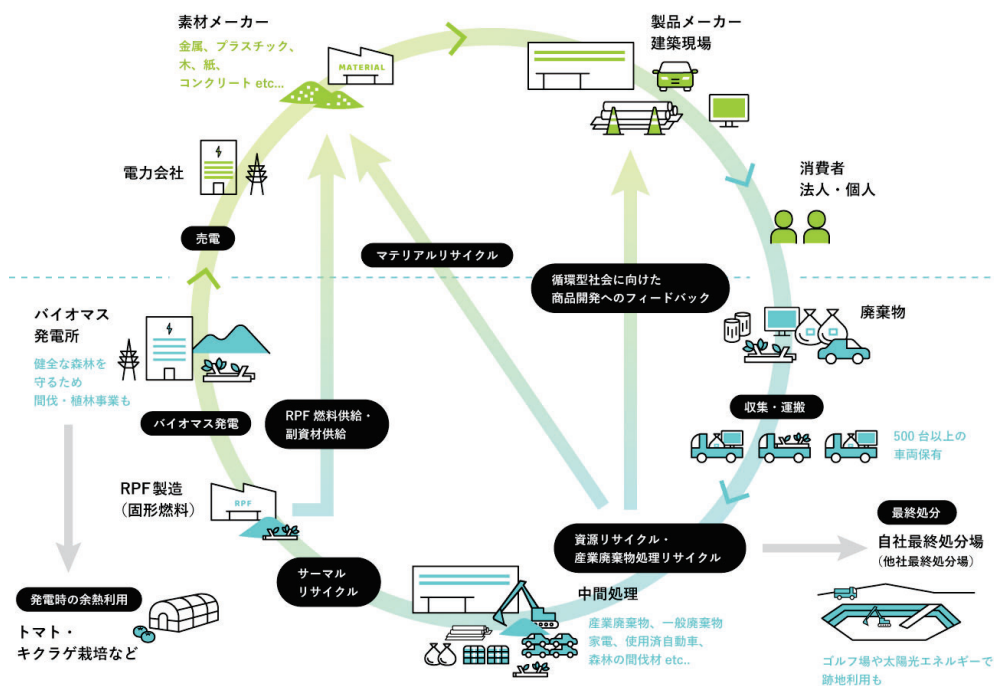
## 持続可能な地球環境への貢献

## 高度循環型社会

## 脱炭素社会

当社グループは、動脈産業で生産され、消費社会で消費された廃棄物を受け入れ、そのほとんどを再資源化しています。

また、再生可能エネルギー事業を  
拡充し、「高度循環型社会」と  
「脱炭素社会」の実現による持続  
可能な地球環境に貢献しています。



## 免責事項

- 本資料に記載の内容は、過去及び現在の事実に関するものを除き、当社が現時点で入手可能な情報及び仮説に基づいて判断されたものであり、当該仮説や判断に含まれる不確定要素や、将来の経済環境の変化等により影響を受ける可能性があり、結果として当社および当社グループの将来の業績と異なる可能性があります。
- なお、本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。
- また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



# TRE HOLDINGS

未来へ、捨てない創造力を。

